

古代アメリカ学会研究懇談会 第 11 回西日本部会
「著者と語る図書紹介 その裏側全部見せます！！」
『図説 マヤ文明』×『古代マヤ文明 栄華と衰亡の 3000 年』

2021 年度の研究懇談会（第 11 回西日本部会）を以下の要領で開催します。ふるってご参加下さい。また非会員の方も参加できますので、関心のお持ちの方にはぜひお声をおかけ下さい。ただし、参加には事前登録が必要ですので、ご注意ください。

〔研究懇談会概要〕

第 11 回西日本部会は、古代アメリカ学会おすすめの新書を、著者自身に紹介してもらおう新企画の内容です。今回は、カラー図版と内容の豊かさで人気の「ふくろうの本」シリーズから『図説 マヤ文明』を出版された嘉幡茂会員、それに新書レーベルとして歴史ある中公新書で『古代マヤ文明 栄華と衰亡の 3000 年』を刊行された鈴木真太郎会員のお二方にお話いただきます。とくに若い世代の研究者、学生、マヤ文明に関心のある広く一般の方々に参加してもらいたい企画です。オンライン開催ですので、お気軽にご参加ください。

なお、参加には事前登録が必要です。10 月 1 日（金）午後 5 時までに、以下のウェブサイトにて登録をお願いいたします。登録後、動画配信サイトの URL を含む詳細情報をお送りします。

参加登録サイト → <https://forms.gle/5JaeE953BZo1bSZY7>

「著者と語る図書紹介 その裏側全部見せます！！」
『図説 マヤ文明』×『古代マヤ文明 栄華と衰亡の 3000 年』

嘉幡茂さん（京都外国語大学）、鈴木真太郎さん（岡山大学）

【概要】

みなさんも、世の中へ一冊の本を送り出すことにチャレンジしてみたいですか。本の執筆者は、どうやってその機会を得て、そしてどんなことを考えながら、何を伝えたいと思って書き上げたのでしょうか。

鈴木さんは「世界標準のマヤ考古学を日本語で学ぶ」ための一書となることを意識して、考古人骨研究を中心に執筆しました。嘉幡さんは「古代メソアメリカ文明におけるマヤ文明の役割とは何か、他地域の文明との接触の中で彼らの思想はどのように誕生し変化していったのか」を



テーマにその解明に挑みました。その研究成果を著者から紹介してもらおう。これが本企画、第一の目的です。まずは前半部のそれぞれの発表に耳を傾けてください。

しかし本企画には次の目的もあります。研究成果を上げ、本書執筆までに至る道を紹介してほしいのです。鈴木さんにとって考古学研究は、自分が今まで人生を賭けて専門として扱ってきたものと言います。嘉幡さんは本書を、知識や知見を提供する媒体としてのみ存在するのではなく、生き方を指し示す作品とまで言います。マヤ文明研究の学術成果から学ぶことは多いでしょう。しかしそれは研究者のいわば一部の成功面を見たにすぎません。その裏側にはどんな物語があるのでしょうか。本企画の後半部では以下の話題に触れながら、成功の裏側に迫ります。

お二人と語り合う時間もできるだけ設けます。それを通じて、若手研究者にはご自身の著作刊行に向けての手がかりやキャリア形成に資するものが見つかることを期待します。また一般の方々には、学術論文には決して現れない研究者の素顔や研究対象の土地での生き方、それにその土地の社会を知るまたとない機会となるでしょう。

● 研究懇談会（オンライン開催。ZOOM を利用予定）

〔日時〕 2021 年 10 月 2 日（土） 13:00～15:00

〔スケジュール〕

- ・ 開会あいさつ 13:00～13:10
- ・ 発表① 13:10～13:40
- ・ 発表② 13:40～14:10
- ・ 休憩 14:10～14:20
- ・ クロストーク 14:20～15:00

〔話題〕

- ① 日本語で一般向けの書籍を出す意味や、そこに至る経緯は？
- ② 現地での経験から見た日本におけるメソアメリカの研究/教育は？
- ③ 現地で考古学者になるには？
- ④ 調査での苦労話・体験談。 など

〔参加登録サイト〕 <https://forms.gle/5JaeE953BZo1bSZY7>

※ 参加希望の方は、10月1日（金）午後5時までに登録ください。



〔発表動画の配信〕 2021 年 10 月 3 日（日）～10 月 31 日（日）〈予定〉

※ 動画配信サイトの URL は参加登録後にお知らせいたします。

〔主催〕：古代アメリカ学会

〔連絡先〕：西日本部会研究懇談会世話人・村野正景(m-murano*bunpaku.or.jp)

古代アメリカ学会事務局(info*americacantigua.com) (*を@に変更してご利用ください。)